

コロナ禍での 人権問題の取り組みは



吉原 美智恵 議員

町長 状況をみながら推進する



人権問題の中心的役割を担っています

【吉原】今、新型コロナウイルス感染患者への嫌がらせ、医療従事者への偏見など、さまざまな差別や不正が噴出しており、人権問題への取り組みも重要ではないか。また、学校現場での人権学習の取り組みは。

【町長】本町で長年取り組んできた小地域懇談会などで培った人権意識が発揮されることを期待している。

被害者に対する相談窓口も設けている。

【教育長】新聞やニュース記事を取り上げ、子

どもたちとともに考える取り組みを行っている。

【吉原】今の状況は、ハンセン病に対する差別とよく似ている。原始時代には部落差別もなかったはずで、人の嫌がる仕事や、特別な能力を持った人達が社会と分断され、差別が生まれた。私たち日本人も外国では差別される事例もある。今こそ、自分の問題として、積極的に人権啓発すべきでは。

【町長】状況をみながら推進する。

【吉原】本町の観光はコロナ禍で特に大きな影響を受けている。観光は裾野の広い産業で、農林水産業や商業の活性化、町民の雇用にも影響が大きい。大きな行事の中止が相次ぐなか、観光課は大山観光局と知恵を出し合い、町内の地産地消を踏まえながらの観光戦略が必要ではないか。

【町長】本町は、いろいろな産業が大山の恵みを受けており、魅力ある施設運営や体験型商品の充実をはかり、イベントのみに頼らない取り組みを進めていく。

【吉原】町民対象の宿泊無料の取り組みが九月末までとして始まるようだが、一緒に考えている体験ツアーも大事だ。町内には、たくさんの文化財もあり、昼の食事の店も充実しているが、あらためて町民が我が町を知り、町内にお金を落とす良い機会になると思う。プレミアム商品券を発行し、消費をきっかけにしてはどうか。

【町長】検討している。

これからの観光戦略は

町長 体験ツアーの充実をはかる



後醍醐天皇お腰かけの岩